



# 昨年よく食べた野菜はタマネギ キャベツ、モヤシ等も上位に

昨年、よく食べられた野菜は「タマネギ」「キャベツ」であることが、タキイ種苗の「野菜に関するアンケート調査」（対象は全国人の20～60代の男女310人、調査期間11月9日～19日）でわかった。同調査は今回で7回目となる。

野菜の2位以下は、キャベツ（8・7%）、タマネギ（コマツナ）（いずれも7・4%）、ニンジン（6・8%）と続いており、日持ちする「キャベツ」「タマネギ」「ニンジン」と、手軽に取入れやすい「モヤシ」「コマツ

ナ」が上位に入っている。また、野菜価格の高騰を感じていた人は68・1%で、例年に比べ高いと感じた野菜トップ5は、1位「レタス」（27・1%）、2位「キャベツ」（24・5%）、3位「キュウリ」（16・1%）（いずれも24・2%）、5位「トマト」（20・6%）だった。

値段が高くても買う野菜トップ5は、1位「タマネギ」（25・5%）、2位「キャベツ」（22・3%）、3位「ニンジン」（17・7%）、4位「ジャガイモ」（16・8%）、5位「トマト」（16・1%）だった。たとえ価格が上がっても常備野菜として安定の人気があることがうかがえる。

2021年に食べる機会が多かった野菜は、「タマネギ」（54・5%）が3年連続の1位に、「キャベツ」（52・9%）も3年連続で2位となった。一方、17年から4年連続で3位の「トマト」が今回はトップ5入りを逃し、代わって「モヤシ」「ニンジン」「ネギ」の3品目が同率（41・9%）で3位となった。「モヤシ」は2年ぶり、「ネギ」は過去5年で初めて上位に入った。

「モヤシ」は、例年に比べ購入量が増えた野菜でも1位（13・5%）となっており、コロナ下に安定的に安価で購入できることから、食卓に並ぶ機会が増えていると考えられる。購入量が増え